



---

日本語サポートデスク  
ピア・サポーターハンドブック  
第四版

-よりよい留学生支援のために-

---

山梨学院大学  
グローバルラーニングセンター

## 目次

はじめに .....	1
1. 「日本語サポートデスク」とは .....	2
2. 山梨学院大学で学ぶ留学生の多様性 .....	3
3. 留学生の日本語力 .....	4
4. ピア・サポーターの心得 .....	5
5. ピア・サポーター活動の流れ .....	12
6. ピア・サポートに使える会話の要素 .....	17
7. ピア・サポートあるあるQ&A .....	19
[資料①]日本語教育関連情報 .....	21
[資料②]「日本語サポートデスク」の大まかなスケジュール .....	22
[資料③]ピア・サポート関連資料 .....	23
初版(2022年3月)執筆者および執筆担当 .....	24

はじめに

山梨学院大学に入学する留学生の増加を受け、留学生を授業外で支援するピア・サポーター制度「日本語サポートデスク」が、2020年に開始しました。「日本語サポートデスク」では、ピア・サポーターがこれまで年間延べ150人以上の留学生を授業期間中に毎週サポートしてきました。留学生とのおしゃべりから新しいことを学んだり、コミュニケーション力が向上したりと、ピア・サポーターはさまざまな手ごたえを感じ、国際共修（言語や文化が異なる人々と共に学び合うこと）が実現しているようです。一方で、留学生とのやりとりが上手くいかない、サポートの時間をどう使えばいいかわからないなど、苦戦している様子も見かけます。

『日本語サポートデスク ピア・サポーターハンドブック』は、ピア・サポートをする上で知っておいた方がいいこと、考えてほしいことをまとめました。と言っても、これはピア・サポートのマニュアル本ではありません。「日本語サポートデスク」が目指すこと、ピア・サポートの考え方を示したものです。サポートに一つの正解はなく、支援する留学生に応じて臨機応変に対応しなければなりません。ピア・サポートで鍛えられる力はさまざまな場面に応用でき、社会人として求められる力の基礎になります。このハンドブックが、留学生支援、ひいては自己成長の一助になればと願っています。

## 1. 「日本語サポートデスク」とは

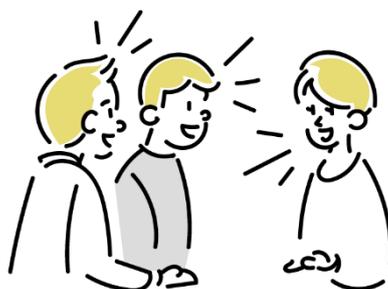
「日本語サポートデスク」は、留学生が日本語の質問をしたり、大学生活に関する相談をしたりできる授業外の学習支援システムです。授業ではたくさんの学生がいて質問・相談しにくいことも、「日本語サポートデスク」では、1対1~2でじっくり話すことができます。「日本語サポートデスク」には、グローバルラーニングセンター日本語教員による専門的サポートと山梨学院大学の学生によるピア・サポートがあります。専門的サポートは全学年利用可能ですが、ピア・サポートは、新入留学生のみを対象としています。どちらも新9号館2階にあるJapanese Cafeが活動場所です。

### 【日本語教員による専門的サポート】



- 日本語の質問、単位履修の相談、課題・レポートの推敲、学習目標・計画の助言、進路の相談など専門的な内容についてサポート。
- 基本的に1対1で対応。予約不要で必要な時に自由に活用可能。

### 【学生によるピア・サポート】



- 授業課題のチェック、発表の練習、インタビュー活動への協力、大学生活に関する情報提供など身近な内容についてサポート。
- 新入留学生1~2名にピア・サポーター1名を配当するマッチング制度を採用。



### もっと詳しく①

2020年、ピア・サポートはオンラインの形で始まりました。新型コロナウイルス感染症拡大で前期授業は全てオンラインになり、大学に入構することさえ難しい事態となりました。そのような中、新入留学生はピア・サポーターと毎週話すことで、大学との接点を感じることができました。

★活動報告(ニュースレター)はこちら:[https://www.ygu.ac.jp/glc/publication/news\\_letter](https://www.ygu.ac.jp/glc/publication/news_letter)

## 2. 山梨学院大学で学ぶ留学生の多様性

山梨学院大学には、多くの留学生が在籍しています。彼らの主な国籍は中国ですが、ベトナム、韓国、モンゴル等からの留学生もいます。日本人学生の場合、高校卒業後まもなく大学に入るのが一般的かもしれません。しかし、留学生の場合、日本の大学に至る経緯はさまざまです。「現地入試」を中国で受験して、来日経験なく入学するケースもありますが、日本滞在経験がすでにある留学生も多くいます。高校卒業後国内の日本語学校や専門学校で数年学んだ経験がある人もいれば、母国ですでに大学を卒業している人、就職経験のある人もいます。つまり、新入留学生=高校を卒業したばかりの人とは限らず、留学生は年齢も経験値も実に多様なのです。

2019年以降、法学部・経営学部の新入留学生は100人を超えるようになりました。それぞれの出身地域によって同じ国籍でも文化はさまざまです。それは、日本国内でも出身地域によって風習が異なるのと同じです。ピア・サポートを通じて、留学生がどのような環境で生まれ育ってきたのか、どのような経緯で日本に留学したのか、ぜひ聞いてみてください。留学生の多様性を把握することは、ピア・サポーターとしての大事な職務であり、留学生を通じて新しい世界を知ることができるのは、ピア・サポーターの特権でもあります。

### 3. 留学生の日本語力

留学生の日本語レベルを考えると、よく参考にされるのが日本語能力試験です。日本語能力試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定するものです。試験は①言語知識(文字・語彙・文法)、②読解、③聴解で構成され、レベルはN1～N5があります。一般的に、日本の大学入学時に求められるレベル目安はN2で、日本での就職や大学院進学にはN1が必要です。

山梨学院大学には、N1～N5レベルにわたる、幅広い日本語レベルの留学生が在籍しています。

一人ひとりのレベルやニーズに合った支援がピア・サポートで目指されます。



もっと詳しく②

日本語能力試験(JLPT)のレベルの目安

レベル	説明	例文
N1	幅広い場面で使われる日本語を理解できる	帰国を余儀なくされる。
N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解できる	帰国せざるを得ない。
N3	日常的な場面で使われる日本語の理解をある程度理解できる	帰国すべきだ。
N4	基本的な日本語を理解できる	帰らなければならない。
N5	基本的な日本語をある程度理解できる	

説明は日本語能力試験サイトより抜粋：<https://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>

#### 4. ピア・サポーターの心得



「わからないことある？」

日本人学生が留学生によくする質問です。たいていの場合、「大丈夫、大丈夫」など留学生は特に問題ないと答えるでしょう。しかし、日本語で説明するのが難しいから本音を言わないこともあるでしょうし、わからないことが多すぎて、何がわからないのか説明できないのかもしれません。

ピア・サポーターにとって、留学生の日本語が理解しにくいこともあるでしょう。ピア・サポーターの質問が理解できず、留学生の返答がなくて、やりとりが成立しないこともあるかもしれません。そのようなときは、わかりあえるまでとことん確認しましょう。留学生の話が理解できないときは、「ちょっとわからなかった。もう一度説明してもらってもいいかな。」などと正直に言いましょう。留学生がピア・サポーターの話をわかっていない様子だったら、「今話したこと、どんなふうに理解したかな？」など、相手の理解が確認できるまで質問しましょう。これを積み重ねると、お互いの理解と信頼が深まります。

母語が同じ人々の間でも、実は互いに全て理解しているわけではありません。相手を尊重し、敬意を払いながら、わかるまでとことん聞く。これは、全ての人間関係とコミュニケーションで重要なことです。



## 相手に興味を持つ

留学生は家族や友人と遠く離れ、慣れない環境で大学生活を送ります。留学生は日本社会で孤立しがちで、日本人の友だちが作りにくいと言われています。日本語に自信がなく、自分から積極的に話すことができないこともその要因です。

ピア・サポートの時間では、留学生の好きなこと、出身国・地域のこと、週末の過ごし方など、身近な話題についてじっくり留学生の話を聞いてみましょう。留学生の出身地域で有名な食べ物について聞いてみてもいいですし、小中高の学校生活について、日本と比較しながら話してもおもしろいかもしれません。ピア・サポーターにとって、留学生が経験してきたことや知っていることはとても新鮮で、サポートしながら学べるのがたくさんあると思います。留学生のピア・サポーターは昔の自分を思い出して、共感したり、助言できることが多いかもしれません。

ピア・サポーターが興味を持って留学生に接することで留学生の孤立感が薄らぎ、日本留学の満足度も高まるでしょう。また、ピア・サポーターとのやりとりが増えれば、留学生の自信と日本語でのコミュニケーション力向上につながります。

# あ

やさしい日本語で  
伝える工夫を

留学生からは、教科書の日本語と日本人が話す生の日本語は全く違って、日本人が言っていることが聞き取れないという声をよく耳にします。日本人学生のみなさん、「毎日英語を使って生活しないといけないなら…」と考えてみてください。留学生の苦労が容易に想像できるでしょう。

留学生が理解しやすいように、伝える工夫をしましょう。簡単な言葉を使ったり、あいまいな言い方を避けたり、短い文で伝えたりするなど、「やさしい日本語」\*（もっと詳しく④を参照）を意識します。画像や動画を見せたり、文字で書いて見せながら話すのもいいでしょう。耳から入る情報に加え、目から入る情報が理解の大きな助けになります。

ここで重要なのは、留学生の日本語力と理解度に応じて上手に自分の話す日本語を調節することです。このことは、家族や友人、アルバイト先の人とのやりとりなど、さまざまな場面に応用できる考え方です。相手が理解することで、「伝える」が「伝わる」になるのです。



### もっと詳しく③

「やさしい日本語」は、1995年の阪神淡路大震災で多くの外国人が被災したのをきっかけに、行政や生活の情報を簡単な日本語で発信する目的で提案されました。多くの自治体や団体が「やさしい日本語」の手引きを配信していますので、インターネットで検索してみてください。ここでは手引きを配信している団体を一つご紹介します。

★公益財団法人横浜市国際交流協会：<https://www.yokeweb.com/yasashiinhongo/>

# Aa

留学生の母語を活用する

「せっかく日本に留学しているのだから、母語はなるべく使わない方がいい」

みなさんは、これについてどう思いますか。

日本語力向上のために、学んだ日本語をどんどん使ってみることは大切です。ピア・サポーターとのやりとりを通じて、日本語でのコミュニケーションに慣れ、言語運用力が高まっていくことも期待されます。しかし、大学で新しい知識を学び、その新しい知識について考えることを全て外国語で行うことは、想像以上にハードルが高いです。

人は、頭の中で考え事をしているときも言語を使っています。おなかがすいたときに「昼ごはん何食べようかな」と心でつぶやくことはありませんか。声に出さなくても、感情や考えを頭の中で言語で表現しているのです。つまり、言語と思考は深く結びついています。

留学生が考えるとき、頭の中でどの言語を使っているか、ぜひ留学生に聞いてみてください。サポートの内容に応じて、翻訳ソフトを使って留学生の母語で意思疎通を図ることも有効です。留学生のピア・サポーターは、担当する留学生と母語が同じなら、母語を活用し、留学生の思考が深まるようサポート内容を充実させましょう。



大学生は高校までの生活と比べると自由に時間が使える分、大学以外の活動が忙しくなったり、夜更かしが続いたりすることもあるのではないのでしょうか。

留学生も深夜のアルバイトをするなどして生活が不規則になり、大学を休みがちになったりして、その結果成績不良に陥ることがあります。また、日本の大学に入学できたことに安心してしまい、大学卒業までの単位取得や卒業後の進路を見据えた日本語学習など、長期的な視点に沿った行動が苦手な留学生もいます。

確かに、大学入学直後に卒業後のことを考えるのは、難しいかもしれません。しかし、留学生が日本での就職を希望するなら、日本人学生以上に早めに情報収集を始める必要があります。また、日本人社員と対等に働けるように、日本語力も高めなければなりません。

留学生自身がそのことを実感しないと、将来の目標が定まらず、今何をすべきかがぼんやりして、大学生活を有意義に過ごせないこともあるでしょう。そのような留学生の場合、ピア・サポートの遅刻・欠席も目立つかもしれません。今頑張ることの意味が見いだせないためです。逆に言えば、明確な目標があり、今すべきことがはっきりわかっているならば、大学生活を安定させやすくなるとも言えます。

PDCA という言葉を知っているでしょうか。計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)のサイクルを繰り返し回すことで、目標達成が可能になる、というものです。ここで重要なのは、PDCA の原動力となる目標をしっかり設定することです。難しすぎず、簡単すぎず、一定の期間に「頑張れば、達成可能」なことを目標に挙げます。直近の1学期間で何ができるようになりたいか、サポートの時間にじっくり深掘りしましょう。その際、留学生が卒業後どうしたいか、4年間でどう過ごしたいかなど、少し先の目標についても話し合うことで、将来に結び付けた形で現在の目標を設定することができるでしょう。

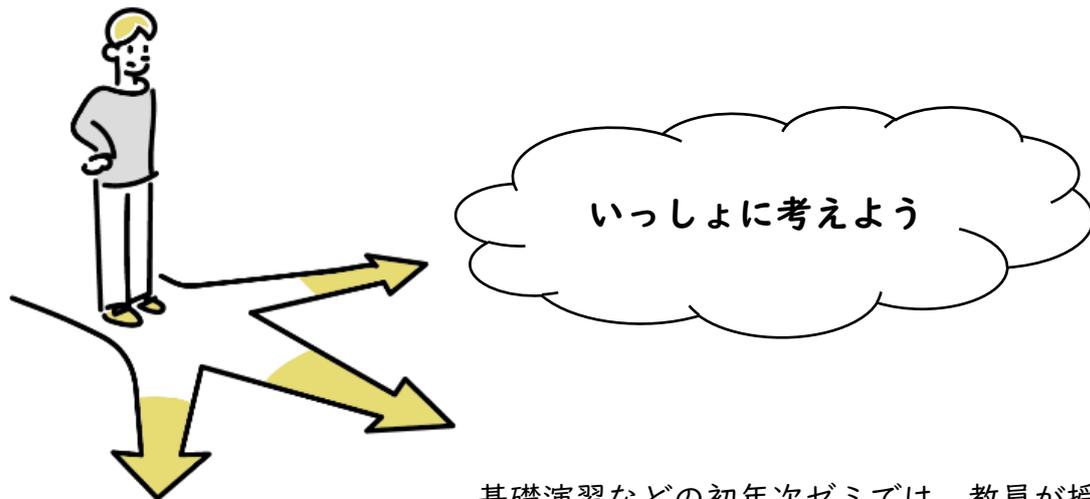
目標を設定するのも、PDCA サイクルを回すのも、もちろん留学生自身です。ピア・サポーターの役割は、目標設定、学習計画・実施・軌道修正といった一連のプロセスにおいて、質問や確認、働きかけをすることです。たとえるなら、自転車に乗る練習中の子ども後ろで、荷台を離していいタイミングを待つ大人、という感じででしょうか。



#### もっと詳しく④

じりつという言葉は、「自立」「自律」と書き方が2種類ありますが、それぞれ意味が少し違います。「自立」は「自分以外のものの助けなしで、自分の力で物事をやっていくこと」、「自律」は「自分の意思であることを決めて、行動すること」です。「自立」が自分一人で考えて、判断・行動することに力点があるのに対し、「自律」は自分で決めた行動を実現するために、人・モノ・コトを有効に活用することも含みます。

例えば、学習につまずいたとき、「わからない」「助けてほしい」と声をあげ、適切な助言を受けて学習の軌道修正をすることも、「自律」の一部と言えます。ピア・サポートでは、留学生が適切に学習目標を設定し、PDCA サイクルが円滑に回せるように、留学生が「助けてほしい」と言いやすい環境を整えながら、留学生の「自律」を意識してみてください。



基礎演習などの初年次ゼミでは、教員が授業を進行し、SA(旧メンター)はその補佐的な役割を担いますが、ピア・サポーターはサポートの時間中基本的に一人で対応しなければなりません。

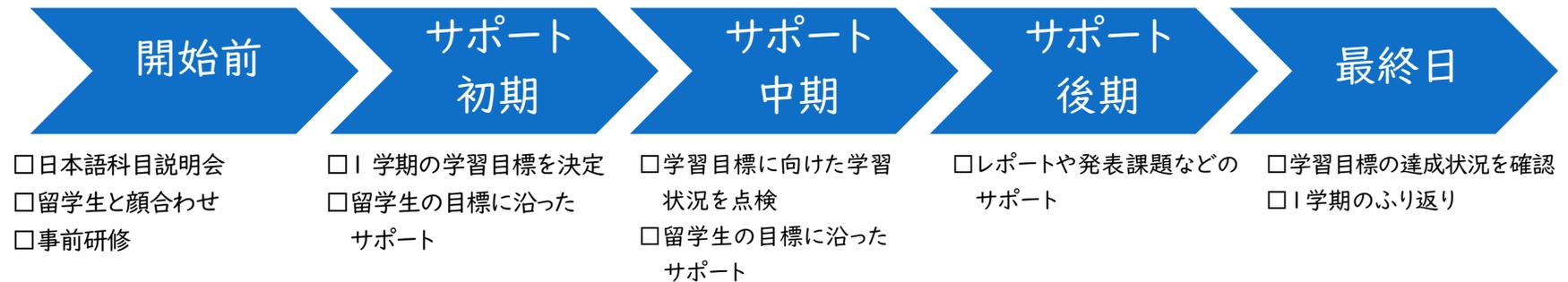
「自分は先生じゃないのに、一人で大丈夫？」

大丈夫です！わからないことがあれば、隣でサポート活動をしている他のピア・サポーターに聞けばいいのです。また、サポートの時間が始まる前に昼礼があり、ピア・サポーター間で情報交換ができます。サポートで工夫していること、上手いかわなくて悩んでいる、違うやり方を試したら改善した、などいろいろな経験を共有すると、ピア・サポーターとしての能力を互いに高め合うことができます。

どんな方法がいいか迷ったとき、留学生にいくつか選択肢を提示して選んでもらうのもいいでしょう。ピア・サポーターは教員ではありません。だからこそ、ピア(仲間)としてピア・サポーターや留学生といっしょに考える姿勢が大切なのです。

## 5. ピア・サポーター活動の流れ

1 学期間のピア・サポートの流れは、以下の通りです(資料②③も参照)。



ピア・サポートは、学期開始前から少しずつ始まります。留学生は大学に入学してすぐに、日本語科目説明会で日本語科目などの説明を受けます。このあと、ピア・サポーターと留学生のマッチングを「日本語サポートデスク」の担当教員が行います。ピア・サポーターは、勤務の流れや勤怠管理、サポートの基礎などを確認する事前研修と、留学生との顔合わせ会に参加します。実際にピア・サポートの勤務が始まるのは学期開始後4週間前後になります。

ピア・サポートの初期には、まず担当の留学生と話し合って1学期の学習目標を決めます(p.9-10を参考に)。その後

は、学習目標に向けた学習の実施状況を点検するのに並行して、日本語科目で出される宿題を中心にサポートします。学期末は留学生も発表やレポートに追われますので、適宜日本語チェックなどをします。

最終日は、学習目標の達成状況を確認し、1学期間のピア・サポートがどうだったか、ふり返りをします。また、上の図にはありませんが、学期終了後に事後研修や教員との面談を実施し、教員とピア・サポーター間でのふり返りを行うとともに、ピア・サポートの向上に向けた意見交換をします。



#### もっと詳しく⑤

留学生は入学後、レベルに応じてさまざまな日本語科目を履修します。日本語科目については、留学生に直接聞いてみるほか、山梨学院大学のシラバスやグローバルラーニングセンターのHPを参考にしてください。

★グローバルラーニングセンターHP(「日本語教育」のページ): <https://www.ygu.ac.jp/glc/japanese>

ピア・サポートの 1 日の流れは以下の通りです。

12:00～ 12:15	昼礼	<input type="checkbox"/> 教員とサポート内容の確認 <input type="checkbox"/> サポートの様子をピア・サポーター間で共有&解決策の検討
12:15～ 12:55	ピア・ サポート	<input type="checkbox"/> 導入:あいさつ、当日することの確認 <input type="checkbox"/> サポート:学生の目標に沿った学習支援 <input type="checkbox"/> まとめ:サポート管理シートの記入、次回することの確認など
12:55～ 13:00		<input type="checkbox"/> Japanese Cafe の図書を返却、机周辺の片付けなど
終了後		<input type="checkbox"/> サポート報告書の記入 <input type="checkbox"/> 留学生へのサポート日時リマインド <input type="checkbox"/> 次回サポート活動の計画

ピア・サポート開始前に、ピア・サポーターと担当教員が昼礼を行います。昼礼では、当日のサポート内容を確認した上で、サポートする際に生まれた悩みを共有して解決案を考えたり、支援において工夫していることを共有したりします。このような共有の時間を持つことにより、ピア・サポーター間のつながりを強化するとともに、ピア・サポーター一間の学びや気づきを促します。

昼礼後にピア・サポートを行います。40 分のサポート時間を有効に活用するために、時間の使い方を予め考えておきましょう。まず、本格的なサポートを行う前に、あいさつや雑談で雰囲気をはぐします。次に、その日のサポート内容を留学生に確認した上で、サポートをはじめます。サポートで扱う内容は、日本語授業にひもづいている宿題に関するものと留学生が持ち込むものがあります。

日本語授業の宿題の場合、例えば、日本語の文章の音読練習やスピーチの練習

(原稿チェック・話す練習)を支援します。音読練習は、留学生が日本語で相手に自分の言いたいことをわかりやすく伝えるために、発音を矯正する目的で行います。ピア・サポーターは「留学生の発音が理解できるか」という観点で、しっかりフィードバックと助言をお願いします。スピーチの練習も同様です。ピア・サポーターは、自分がスピーチの

聞き手ならと想像し、発音や内容、話すス

ピード、声の大きさなどを確認していきま

しょう。また、スピーチ練習の際、読み上げ

原稿にずっと目を落としている留学生も

いるでしょう。発表中、聞き手とアイコンタ



クトがあると、より内容が伝わりやすいことは、みなさんもいろいろな発表を見たり聞いたりして、実感しているのではないのでしょうか。留学生に少しでも顔を上げて話すように助言しましょう。

留学生が自分で学習しているものを持ち込む場合は、まずピア・サポートの初期(p.12 参照)に学習目標と学習計画をいっしょに考えます。そして、毎週学習計画にしたがって、学習内容を確認したり、留学生の質問についていっしょに考えたりします。質問はいろいろあると思いますが、日本語能力試験(p.4 参照)合格を目指して勉強している場合、文法や語彙問題で解けなかったものについて、教えてほしいと言われるかもしれません。サポートの時間は限られていますので、答えを教えてしまった方が早いこと

もありますが、できるだけいっしょに考え、いっしょに辞書や参考書を調べて答えを確認するようにすると、やがて留学生が自律的に学ぶ力を養うことにつながります。留学生が何を勉強すればいいか決められない場合、日本語学習テキストやサイト(資料①参照)をいっしょに見て、学習しやすいものを選んで進めていくといいでしょう。

サポートの最後には、「サポート管理シート」を記入します。「サポート管理シート」は、1学期間の学習目標や毎回の学習計画、実際の支援内容などを担当留学生と確認し合うためのシートです(資料③参照)。毎回のサポートが終わった後に「サポート管理シート」を記入し、担当教員に渡してください。

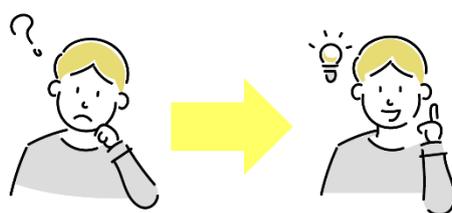
勤務は以上で終了です。あとで勤務報告書(資料③参照)を記入し、その日のサポート活動で上手くいったこと、いかなかったことなどをふり返ります。この勤務報告書の提出は、勤怠管理の目的を兼ねています。次回のサポートの前日には、担当留学生にサポー



トの日時をリマインドしましょう。そして、サポートの冒頭でどんな話題について話そうか、宿題のサポートでどんな工夫ができるかなど、サポート活動の準備をします。

## 6. ピア・サポートに使える会話の要素

以下では、ピア・サポートで使える会話の要素をご紹介します。留学生の話をもっと正しく理解し、共感したりほめたりしながら、留学生のモチベーションを高めることが主となりますが、時には留学生の背中を押し、さらなる挑戦を促してみましよう。



### ■ 留学生の話をもっと正しく理解しながら話を進める

- 繰り返し: 留学生の大事な言葉(キーワードなど)を繰り返して使う
- 言い換え・要約: 「つまり、~ということ?」など、留学生の発話を別の言葉で言い換えて確認する
- 促し: 「それから?」「例えば?」「もっと詳しく教えて!」「つまり?」など、相手の発話を促す

### ■ 留学生の自信を高め、やる気を引き出す

- ほめる: 留学生の何かを取り上げてほめる
- 共感: 「確かに」「わかるよ」「大変だよ」など、留学生の困難などに共感を示す
- ポジティブ・フィードバック: 学習成果に対して、肯定的に伝える
- 経験共有: 自分が頑張って上手くいった話などで勇気づける(話し過ぎに注意!)

■ 留学生の考えを揺さぶり、新たな気づきを促す

- パワフル・クエスチョン:「なぜ」「どのように」など物事の根本的なことを問う
- 沈黙:問いかけの後に留学生が考える時間を与える

■ 留学生に自分の学習を管理させる

- 責任意識:自分自身の学習目標と計画を留学生に意識させる

[学習目標を確認する問いの例]

「将来日本語を使って何をしたい？」

「そのために、何ができるようになる必要がある？」

「今学期できるようになりたいことは？」

- リマインド:目標設定や計画を定期的に確認させる
- 自己評価:学習に関して、実施状況・達成度を%などで自己評価させる
- 挑戦:目標に向かって頑張れるように背中を押す



もっと詳しく⑥

「日本語サポートデスク」での学習支援は、コーチングの考えに一部基づきます。コーチングとは、クライアントの可能性を引き出し、目標達成に導くコミュニケーション手法を指します。コーチングの代表的な図書をご紹介します。

★鈴木義幸(監修), コーチ・エイ(著)(2019)『新版 コーチングの基本 この1冊ですべてわかる』日本実業出版社。

## 7. ピア・サポートあるある Q&A

Q: ピア・サポートはどこでやりますか？

A: 新 9 号館の 2 階にある Japanese Cafe でやります。

Q: 留学生と相談して、毎週都合のいい時間にサポートをしてもいいですか？

A: いいえ。毎週、決められた曜日の昼休みにサポートを行ってください。

Q: 授業がない期間もサポートをしますか？

A: いいえ。サポートは授業期間のみです。各学期 10 回程度実施します。

Q: ピア・サポートは何語を使ってやりますか？英語が話せないとできませんか？

A: 基本的に日本語を使います。留学生の 9 割以上が中国出身で、英語ができるとは限りません。ですので、「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションを心がけましょう。留学生のピア・サポーターで、支援対象の留学生と母語が同じ場合、ぜひ母語を活用したサポートを行ってください。

Q: 高校まで国語が苦手で、日本語が教えられるか自信がありません。

A: ピア・サポーターは教員ではありませんので、ピア・サポートと「教える」ことは少し違います。留学生に聞かれてわからない場合は、いっしょに調べましょう。むしろ、自分の知る日本語が唯一の正しい答えだと思えないほうがいいです。(もっと詳しく⑦を参照)



### もっと詳しく⑦

日本語を教えることは、実はとても難しいのです。日本語を教えるための資格に含まれる、「日本語教育能力試験」は合格率が 25%前後と非常に難関なことで知られています。

日本語の奥深さを外国語として学ぶ留学生はよくわかっています。留学生の学習プロセスを垣間見るために、普段何気なく使っている日本語を違う角度から眺めてみるために、日本語教材や日本語教育の入門書を読んでもみることをおすすめします。

★おすすめの冊子: 庵功雄他 (2020) 『やさしい日本語のしくみ 改訂版: 日本語学の基本』くろしお出版。

Q: コミュニケーションは正直言って苦手です。ピア・サポートの仕事はできますか？

A: コミュニケーション力を向上させたい人を歓迎します。ただし、留学生の中には日本語で話すことに消極的な人もいます。ですので、自分から話すのが苦手でも、留学生に働きかけようという姿勢が必要です。

Q: 自分は留学生なのですが、ピア・サポーターに応募できますか？

A: 新入留学生にとって、先輩留学生のピア・サポーターはロールモデル(模範)的な存在であり、大きな励みとなるでしょう。現在もたくさんの留学生がピア・サポーターとして活躍しています。ただし、日本語能力試験の N2 相当、それ以上の力を有していることが条件となります。

Q: 学習内容は、ピア・サポーターが全て準備しなければなりませんか？

A: ピア・サポート対象の留学生によって内容が変わります。日本語の授業で出される宿題に沿ってサポートする場合と留学生の学習目標・計画・実施に応じてサポートする場合があります。いずれにしても、学習内容は基本的に留学生が自分のニーズに応じて決めます。ピア・サポーターは事前にその内容を把握し、サポート時間を有効に活用できるように、準備しましょう。

Q: 4年生なので、就職活動で毎週ピア・サポーターとして勤務するのが難しいです。

A: ピア・サポートは、学期開始前にピア・サポーター 1 名に留学生 2 名程度を割り当てるマッチング方式を採用し、授業期間中同じ留学生を毎週 1 回担当します。欠勤が頻繁に続いたり、直前にサポートがキャンセルになったりすると、留学生の学習リズムが崩れる他、さびしい思いをさせてしまいます。就職活動中もピア・サポーターとして活動する学生はいますが、その点をよく考えて行動してください。

Q: ピア・サポートの日に留学生が欠席したら、どうしますか？別の日に変更しますか？

A: 原則変更はしません。出勤扱いですので、給与はもちろん支給されます。留学生が欠席した日は、他のピア・サポーターの活動を助けたり、観察したりしてください。Japanese Cafe にある日本語学習関連図書に目を通すなど、空いた時間を有効に活用するといいでしょう。

## [資料①]日本語教育関連情報

日本語能力試験 <https://www.jlpt.jp/>

留学生にとって最も重要な語学試験の一つ。上のサイトにサンプルテストがあります。留学生がどのような試験に取り組んでいるのか知るために、ぜひ受けてみましょう。

BJT ビジネス日本語能力テスト <https://www.kanken.or.jp/bjt/>

日本語のビジネス・コミュニケーション力を測る語学試験。日本で就職活動する際に日本企業に重視される試験です。試験の概要やサンプルテストを見てみましょう。ピア・サポーターの皆さんの就職活動にも役に立つかもしれません。

日本語学習ポータルサイト「NIHONGO e な」<https://nihongo-e-na.com/jpn/>

話す・聞く・書く・読むの四技能に加え、文法・語彙・漢字・辞書/翻訳・社会/文化などのジャンルごとに、日本語学習サイトのリンクが網羅的に紹介されています。サポートの時間に紹介したいサイトを探してみたいかでしょうか。

ふりがな挿入サイト「ひらひらのひらがなめがね」<https://hiragana.jp/>

日本語の文・文章をコピーして貼り付けると、ふりがなをつけてくれるサイト。留学生の発表準備などで活用すると便利です。

語彙レベルチェックサイト「日本語教育語彙表」<https://jreadability.net/jev/>

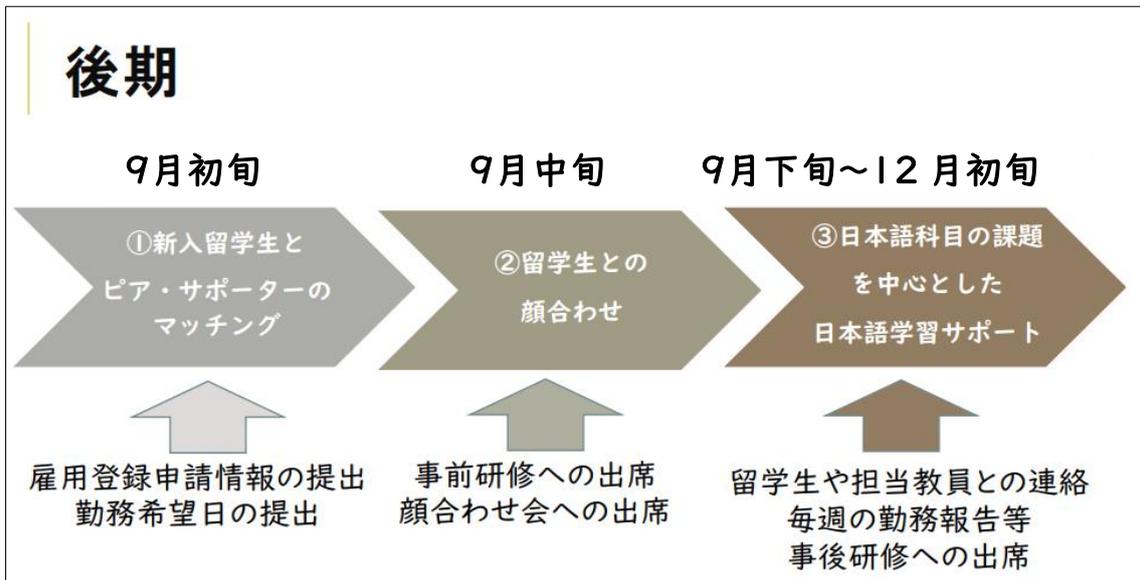
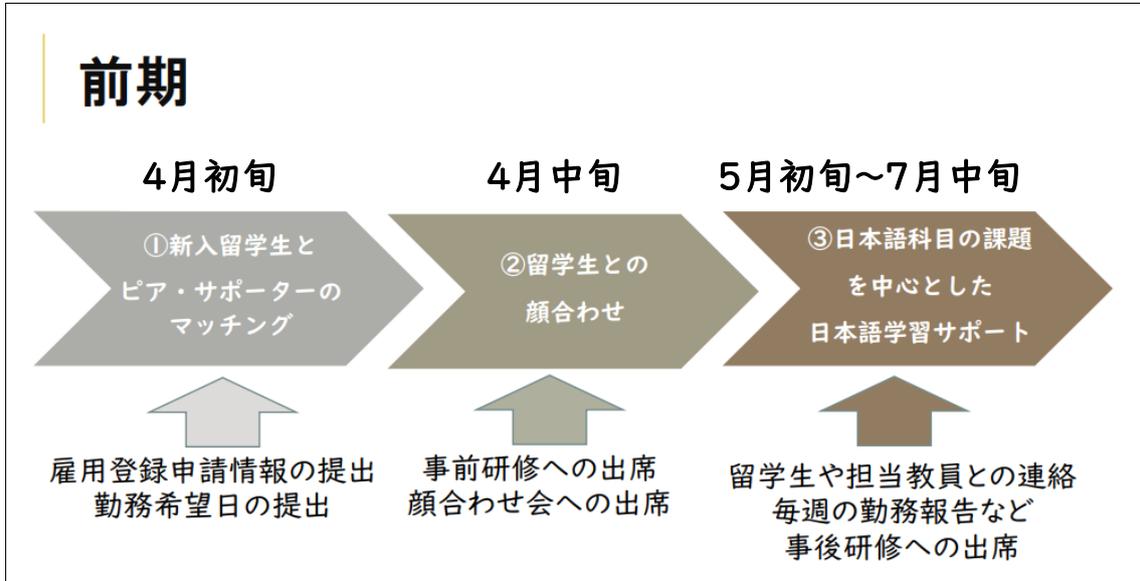
日本語の語彙を入力すると、日本語能力試験のレベルを教えてください。語彙の難易度を知りたいときに活用するといいでしょ。

やさしい日本語変換サイト「チュウ太のやさしくな一れ」<https://yasashii.overworks.jp/>

日本語の文・文章を入力すると、やさしい日本語に変換してくれます。留学生に伝わる日本語のヒントを得るために、いろいろな文を試してみましょう。



[資料②]「日本語サポートデスク」の大まかなスケジュール





## 初版(2022年3月)執筆者および執筆担当

トンプソン美恵子 (はじめに、1章、2章、3章、4章、5章、6章、7章、資料①)

東京大学大学院総合文化研究科グローバルコミュニケーション研究センター 准教授  
(元山梨学院大学グローバルラーニングセンター 副センター長/特任准教授)

金桂英 (1章、5章、資料②③)

徳山工業高等専門学校 助教  
(元山梨学院大学グローバルラーニングセンター センター長補佐/特任講師)

『日本語サポートデスク ピア・サポーターハンドブック -よりよい留学生支援のために-』

2025年3月31日 第四版

【編集・発行】山梨学院大学グローバルラーニングセンター